

Shopping Street Hack

チーム

チームテーマ

男山団地内の商店街で、
地域の人と一緒に笑顔になれるイベントを月1~2回開催しよう！

主な活動場所

男山中央センター商店街

チーム紹介

様々な大学・年齢の人が集まった，ボランティアチームです！

【チームメンバー（50音順）】

東 咲：京都精華大学 デザイン学部 3年生
大塚 英右：同志社大学 経済学部 3年生
熊木 愛実：京都女子大学 現代社会学部 1年生
西川 桃子：同志社大学 商学部 3年生
久永 礼磨：京都大学 総合人間学部 3年生
宮 望乃果：龍谷大学 社会学部 3年生



【チームの特徴】

- ・受け入れ団体側も，大学生が担当している，学生主体のボランティア団体です。
- ・コミュニケーションを大切に，一丸となって活動を頑張りました！
(月に一回程度の オンライン会議 or 現地でのイベント)

活動紹介

【商店街の鉢植え (7月)】



【ハロウィーンイベント (10月)】



活動紹介

【メンバー懇親会 (8・11月)】



【ミニ・ミニミュンヘン (12~2月)】



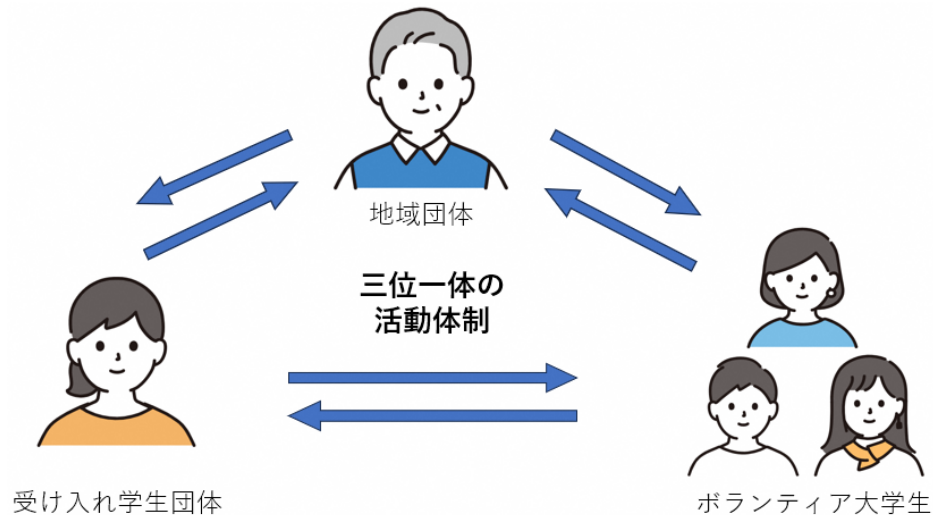
私たちが感じた魅力

[地域団体の優しさ]

- ・「おとこやま盛りあげ隊」の皆さんは、大学生の意見を積極的に引き受け、互いを尊重した、ボランティア活動を行うことができました！

[受け入れ学生団体の献身的なフォロー]

- ・受け入れ側の学生のみなさんのおかげで、地域団体や京都府などとスムーズな意見交換や連携を行うことができました！



私たちが感じた団体や地域への影響・成果



- ・ハロウィンイベントでは、大学生のお手伝いもあって、子ども達はたくさん喜んでいました。
- ・ワークショップでは、色々な「科学」の不思議を知れて面白かった。

(イベント参加者コメント)

- ・今回「京都版 ミニ・ミュンヘン in 八幡市」の振り返りを行えて、大変有意義であった。
- ・来年度、再び「ミニ・ミュンヘン」を行うかどうかの確かな足がかりとなった。

(京都府 総合政策環境部 女性)



課題点：「地域コミュニティの希薄化」・「年齢を問わない地域参画」にどのようにアプローチするのか...

感想

- ・初めは緊張したが、SSHの皆さんが優しく親切にしてくださりすぐに打ち解けることができました。
- ・子ども達が楽しいと思えるような環境を主体的に作ることで、周りの大人にも元気を与えられ、街に活気が生まれていたと感じました。
- ・「様々な立場の人に自分の意見を発信し、それを行動に移す」という貴重な経験をさせていただきました。
- ・様々な人々の手助けがあってこそ、ボランティア活動が実現する。そんな地域参画にも通ずる「相互扶助」の重要性を改めて認識しました。
- ・相手が何歳だとしても、その人自身を尊重してあげることの大切さを実感しました。今後の地域活動への参加の良い経験になりました。
- ・不安や緊張を顔に出さないようにし、相手に寄り添った接し方をすれば、相手も心を開いてくれて、有意義な関係が生まれるのだと実感しました。